

病防第55号
平成24年6月26日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

早期水稻地帯における斑点米カメムシ類の発生状況（技術情報第5号）について
（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。
記

1 斑点米カメムシ類の発生状況

- (1) 2012年6月第1週～3週に3回、上天草市松島町ですくい取り調査（植生：イタリアンライグラス及びイネ科雑草）を行なった。
- (2) すくい取り調査における20回振り捕獲成虫数の平均値は、最重要種であるクモヘリカメムシが12.1頭（平年11.1頭）と平年並であった。その他、シラホシカメムシ2.2頭（平年1.2頭）とやや多い発生であったが、ホソハリカメムシ2.5頭（平年3.1頭）、ミナミアオカメムシ0.1頭（平年0.2頭）およびアカスジカスミカメは13.1頭（平年19.3頭）と平年より少なかった（図1，2参照）。

2 防除対策

- (1) クモヘリカメムシでは、穂揃い期の密度が1～2頭/100㎡を超えると斑点米率が0.1%以上となるなど、斑点米カメムシ類の加害は低密度でも品質に影響を与えるので、出穂期から成虫の発生に注意する。
- (2) アメダス地点での有効積算温度シュミレーションによるクモヘリカメムシの第1世代羽化期は、松島が7月6日、本渡が7月8日と予想されている。
- (3) 防除適期は、穂揃い期とその7～10日後（乳熟期）の2回である。
- (4) 斑点米の産出能力は、クモヘリカメムシやミナミアオカメムシ等の大型のカメムシ類が高い。
- (5) カメムシ類は広範囲に移動するため、広域で一斉防除を行うと効果が高い。
- (6) 出穂後における周辺雑草の除草は、本田への飛来を助長するため行わない。
- (7) 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守し、ミツバチを含め周辺環境等へ飛散のないよう注意する。特に養蜂家へ事前に防除時期等の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

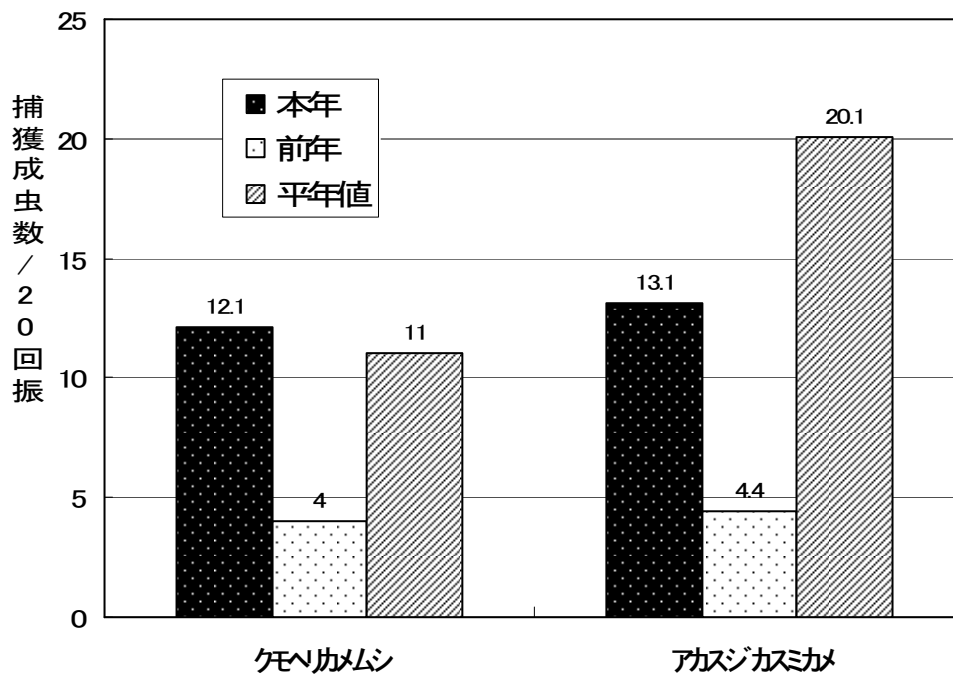


図1 クヘカメシ・アスジカシカメの捕獲成虫数の比較

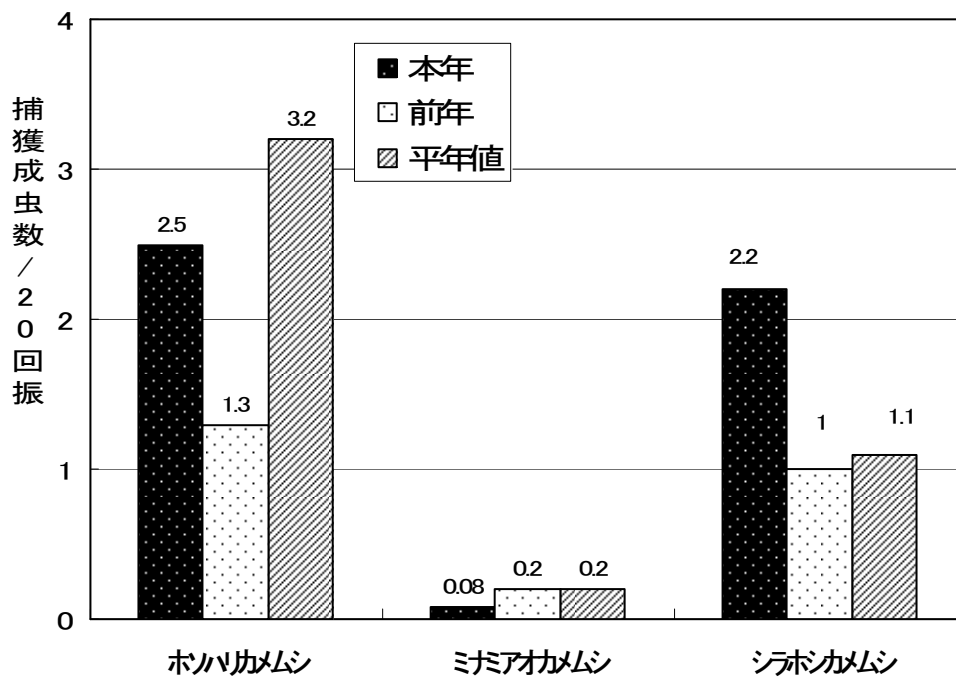


図2 ホリカメシ・ミミアカメシ・シロカメシの捕獲成虫数の比較

問い合わせ先
 病害虫防除所
 (生産環境研究所)
 山口
 TEL: 096-248-6490
 e-mail: yamaguchi-t-dj@pref.kumamoto.lg.jp